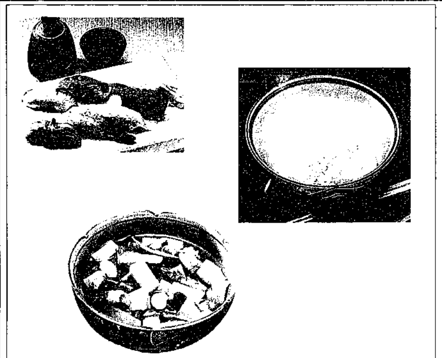


新春トーク 世界にはばたけ 新潟のスポーツ人

競技との出合い

スカートで跳んで（佐藤）

元気あり余って（原）

司会 さて、今日はスタジオに、新潟に縁のあるお二人をお迎えしました。市長、こうした方たちがスポーツを通して、世界のひのき舞台で活躍されている。うれしいことですね。

市長 本当に世界で活躍していらっしゃいますね。バルセロナオリンピックのときはテレビで応援してましてね、郷土の選手が出てくるともう興奮をして、思わず力が入りました。

司会 そうですね。やはり新潟の方が出られると、本当に応援にも熱が入りますよね。ところで佐藤さん、木戸の出身だそうですね。

佐藤 はい、そうです。牡丹山小学校、木戸中学校、沼垂高校と、高校時代まで新潟で過ごしました。

司会 そうですか。今は九州の福岡ですね。佐藤さんが走り高跳びに出合ったきっかけというのは、どういうことだったのでしょう。

佐藤 中学に入学しまして、クラブ見学というのがあったんですね。そのときに、先輩がたまたま走り高跳びをしてまして、背面跳びというのをそこで初めて見たんです。で、面白そうだなあということで、その場でスカートのまま跳ばせてもらったんです。

司会 そうですか、そういうことから始まったのですね。今考えてみると、ここまで来れると思ってましたか。

佐藤 自分自身、記録的にここまで来れるとは思ってなかったですね。正直言って。ただ、やっぱり好きでしたからね、どういう形であれ、たぶんやっていたと思いますね。

司会 なるほど、佐藤さんが出した中学、高校の記録は日本記録としていまだに敗られていませんからね。では、原さんとレスリングの出合いというのは、いつごろでしたか。

原 高校に入ってから始めたんです。それまで柔道やっていたんですが、元気あり余っていたもんですから、中学の担任にレスリングでもやれと、それで始めました。

司会 柔道からレスリングに変わって、魅力といいますかここまで続けられたというのは、どんなところなんでしょう。

原 やっぱり自分の性格に合ってまして、思い切り自分を出せるスポーツだったからですね。それですぐのめり込んじゃいました。

司会 それで、どんどん実力がついていったんですね。市長は高校・大学とバレーボールに親しんでいらっしゃったということですが。

市長 お二人の前で話をするには、ちょっと恥ずかしいぐらいなんですけれども、高校時代は新潟県代表のチームとして国体に出まして、ベスト十六でした。それでベスト八になるのは難しいことだなと思ってます。お二人には素質に加えて努力があって、本当に素晴らしい成績を収めたと思いますね。

最大の出来事

バルセロナオリンピック

司会 昨年のバルセロナオリンピックのことなんですが、お二人にとっても最大の出来事ということで、いろいろ思い出があると思います。佐藤さんはロサンゼルス、ソウルに続く三回目のオリンピック出場ですね。

佐藤 ロサンゼルスのときはまだ高校生で、もうその場の雰囲気に慣れなくて何がなんだかわからないうちに予選落ちしてしまいました。その次のソウルのときは、まあ落ち着いて決勝までいったんですが十一位と、そんな状態でした。

司会 そして入賞が期待されたバルセロナへと続くわけですね、それではあの感動を再びということで、佐藤さんの活躍ぶりを見ていただきましょう。

＝バルセロナオリンピック女子走り高跳びのビデオを上映＝

司会 何度見てもじんと来るものがありますね。惜しくも一㍍九十四㌢というのはクリアできなかったけれども、オリンピック初入賞七位という立派な成績で、佐藤さん、感激もひとしおだったんじゃないですか。

佐藤 そうですね。ずっとけがばかりだったんで、その中での七位入賞ということで、信じられないくらいうれしかったです。

司会 去年の前半、体の方も不調だといわれた中で頑張られたということですね。

市長 そうですね。今のビデオの中にも出ましたけれども、三十秒前とか、残り二十八秒とアナウンスがありますね。あれは名前を呼ばれてから一分半の間に跳ばなければいけないのだそうです。その間に今までの練習の成果を集中して、一気に跳び出すわけだから大変な集中力ですね。この入賞というのは、女子のフィールド競技の中では、四十年前のヘルシンキ大会円盤投げ四位の吉野選手以来だそうです。本当に素晴らしい成績と思います。

司会 本当に努力のたまものという感じがします。今度は原さんのバルセロナでの活躍振りを見てみましょう。

＝同オリンピックレスリングのビデオを上映＝

司会 原さんは予選を三勝一敗と進み、六位以内の入賞は確定。このままいけばメダルの可能性もあったわけなんですが、思わぬ計量ミスという落とし穴で残念な結果になってしまいました。いかがでしたでしょう。

原 んー、くやしかったですね。くやしかったですけど、しょうがないですから。

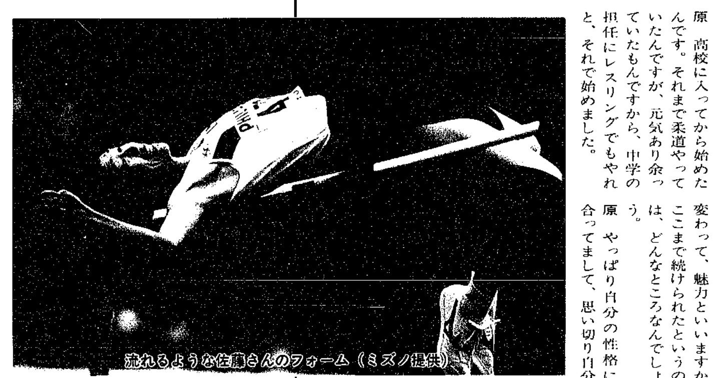
司会 でも、皆さんがいろいろ声をかけてくださったそうですね。

原 そうですね。特に新潟へ帰って来てから励ましの声を多くいただきました。

司会 市長、やっぱりスポーツということで、いろいろなことがあるということになりますね。

市長 そうですね。でも今、こういう心境になっておられるというのはね、やっぱり一試合一試合、全力を尽くして戦ってこられたという、壮快感、達成感といいますか、そういったものが背景にあるんだと思いますね。本当にスポーツマンという感じがします。

この座談会は、ＢＳＮ新潟放送で１月３日午前10時半から11時放映の新春特別番組を要約したものです。



流れるような佐藤さんのフォーム（ミズノ提供）

多くの大会を開催 市民の協力で大成功

司会 去年は山形国体も開催されました。佐藤さん、国体には何回も出場していらっしゃいますね。

佐藤 高跳び以外、幅跳びでも何回か出ているんです。で、何回出ているかちょっとわからない。けれども、確か走り高跳びで出た試合は、全部優勝していると思います。

司会 いつもトップでいるというのは、たいしたもんですね。原さんはどうでした。

原 今回の国体が一番思い出に残っています。オリンピックが終わって、本当は出たくなかったんですけど、いろいろお世話になった人のためにと思って出場しました。

司会 ライバルの赤石選手との対戦がありましたね。赤石選手はバルセロナの銅メダリスト、そこで原さんが見事に勝って国体四連覇。見事に実力が証明されたという感じがしました。市長にとってはどのような年でした。

市長 スポーツの分野だけとりましても随分いろいろなことがあったなと思います。このバルセロナオリンピックの卓球競技アジア大陸予選大会が、二月に開催されました。市民の皆さんの協力で大成功になりました。この後すぐに、新潟でずっと長く続いている全国高校選抜のレスリング大会。それから夏には全国中学校陸上選手権大会。第一回環日本海新潟駅伝大会というのが秋にありまして、新潟の街なかを走った初めての駅伝大会ということで、市民の皆さんが雨の中、大勢応援をしていただきましたね。とても記憶に残る大会でした。

ふるさと新潟の味は のっぺい 日本酒 コシヒカリ

司会 今年もまたさまざまなスポーツイベントが催されることと思いますね。さて、お正月ということですが、佐藤さん、毎年お正月は新潟に帰ってこられるわけですか。

佐藤 今まではずっと合宿が入りまして、帰ってこれなかったんですけれども、今回やっと親と過ごしてます。でもまたあしたから合宿です。

司会 大変ですね。でも、福岡と新潟の定期航空路ができましたからね。

市長 便利になりましたね。

司会 原さんは昨年三月に結婚されて、新婚生活初めてのお正月ということなんですね。どうですか、初めてお二人で過ごすお正月というのは。

原 実はあしたから新婚旅行へ行きます。

司会 今まで忙しくて行けなかったわけですね。どちらへ行かれますか。

原 タイの方なんですけれど。

司会 いいですね。本当にスタジオが熱くなってきたような感じがします。さて、市長はお正月といいましても、公務でいろいろお忙しいのでしょう。

市長 そうですね。元日の年賀状の出発式に始まりましてね、いろんなことがあるんですね。でも、やっぱりお正月は家族とか兄弟集まりましてね、一緒に食事をしたりして、だんらんの機会がありますね。それから当然ですけれども、お料理も正月料理が出ていいですね。

司会 どんなのがお好きですか。

市長 私は「塩引」と「すまめ」と「のっぺい」。これはもう欠かせませんね。やっぱり新潟の味だと思います。

司会 市長からのっぺいが出ました。新潟の代表的な郷土料理なんですけれども、新潟の食べ物というのは、私たち新潟人が誇りとしているものだと思います。原さん、新潟の食べ物、お酒も含めてどうですか。

原 はい、おいしいですね。

司会 のっぺいと日本酒なんてのはどうです。

原 いいですね。日本酒は冷やで飲むのが一番好きです。

市長 いいお酒が多いですからね。

原 おいしいですね。

司会 佐藤さんは九州にお住まいということで、新潟の食べ物に何か懐かしさを覚えるというようなことってありますか。

佐藤 そうですね、やっぱりお米ですね。

司会 やっぱりお米屋さんに行ったりするとコシヒカリを探しますか。

佐藤 新潟米を探しますね。

司会 ご両親は新潟にお住まいですから、たまには送ってきたりとか。

佐藤 送ってはくれますが、新潟で食べる新潟米が一番おいしいです。それですごく食べるんですよ。

司会 そうですか。本当に故郷新潟を離れていても、やはり食文化というのは「ふるさとの味」「おふくろの味」ということで、心の中に残っているんですね。

司会 ところで、原さんは高校の先生として、これからの時代を担う新潟の若者を指導していらっしゃるわけなんですが、最近の子どもたちというのは、どうでしょう。

原 ちょっと物足りないですね。レスリングに関して言えばですけれど。自分を自分の物差しで測らずに、もっとがむしゃらにやって欲しいですね。

司会 おっとりしているのでしょうか。

原 それもあると思います。優しいですね。気持ちが。

＝北高校レスリング部の練習風景のビデオを上映＝

司会 厳しい練習風景という感じなんですけれども、かなり気合が入ってますね。

原 私だけなんですけど。

司会 いずれはこの中から素晴らしい選手が育ってくれるといいですね。さて、佐藤さんは現在福岡にお住まいということで、外から見た新潟人、新潟気質というのはどんなものでしょうか。

佐藤 すごく粘り強いなというのと、ひとつのことを考えたらそれしかやらない――私なんですけどね。それしか見えないみたいなところを持っているような気がします。自分で環境を整えて、自分自身でやっていく人が多いんじゃないかな。そんな感じはしますね。

司会 市長はいかがです。

市長 やはり活躍をしておられる選手の話を聞きますと、練習の仕方ひとつにしても、もちろん繰り返し練習は大事ですけれども、なんというか自分にあった練習の仕方を工夫しながらやっているという感じがしますね。練習ひとつでも創造的に取り組むというのは必要のような気がしますね。それにはいいコーチと、いい試合を見るということが大事なような気がします。これからもそういうことに私も心がけたいなと思います。

司会 そういう意味で、可能性というのはかなりあるということになりますね。

市長 そうですね。素質はみんな十分持っていると思うんですよ。

オリンピック選手に指導してもらえると部員たちは感激―新潟北高校

今年の抱負・夢

司会 さて、新しい年を迎えて、お二人はどのような抱負を持っていらっしゃるんでしょうか。まず、佐藤さん。

佐藤 昨年オリンピックで入賞という目的を達成できましたので、今年は記録的な目標を達成できるようにしていきたいですね。

司会 今、日本記録一㍍九十五㌢をお持ちですが、それ以上ということですか。

佐藤 自分の夢かも知れませんけれども、目標が二㍍ですから。

司会 頼もしいですね。これからまた佐藤さんを見るのが楽しみになりますね。原さんはいかがですか。

原 勤めている職場の高校生を強くしたいですね。

司会 さきほど指導の場面が出てましたけれども、部員数は何名ですか。

原 八名なんです。一・二年生で。

司会 どうですか、出来栄えといいますか。

原 なかなか頑張り屋がそろっていますんで、期待してください。

市長 先生ご自身もまだ試合に出られるわけですか。

原 出ます。アマチュアに引退はないですから。

司会 いい言葉ですね。原さんがおっしゃると説得力がありますね。それとアトラスというレスリングのクラブチームをつくられたということですが。

原 登録したところです。あとは場所ができ次第で、レスリングを通じての人間形成をと思っています。

司会 皆さんも、小さいお子さんでもレスリングやってみたいという方は、原さんに言っていただければ。

原 よろしくお願いします。

司会 さて、市長は今年の抱負といいますか、何か計画はありますか。

市長 選手でジュニアの出身という方が多いですね。体操なんかもジュニアクラブで一生懸命やっておりますし、今、原先生の話がありましたけれども、若い時代からいいコーチについて能力を開発してもらうというのが非常に大事なような気がしますね。そういう意味でジュニア指導の強化というのが大事だと思います。市の体育協会に出資金といいますか、そういうのを出しまして、そこでいい指導者を呼ぶということをやっています。そういったことをぜひ新年度も強化したいなと思っています。

司会 施設の充実はどうですか。

市長 各地区に体育館を作ろうと思いまして、北地区の体育館とか、それから東地区にセンターコート付きの十六面のテニスコートを新しく作ろうとかですね。鳥屋野潟のスポーツゾーンもいよいよ本格的に整備が始まります。

司会 楽しみですね。さて、今日は世界にはばたけ新潟のスポーツ人ということでお話を伺ってまいりました。本当にお二人を見ると、スポーツを通して技術だけでなくて、人格形成とか人間的にも素晴らしいと感じました。これからもご活躍いただきたいと思います。

出演者

新潟市長 長谷川義明

スポーツ歴として、高校・大学時代はバレーボールに熱中し、新潟高校3年のときには国体でベスト16に進出。現在は散歩やゴルフ、ハイキングを少々といったところ。

原喜彦

〈原喜彦さん・レスリング選手〉日本体育大学を卒業し、現在は県立新潟北高校の教諭。生徒にとっては頼れる兄貴分といったところ。オリンピックにはソウル、バルセロナの2回出場。国体では4連覇中。今年は念願のレスリング道場をオープンさせる。

〈佐藤恵さん・走り高跳び選手〉木戸中学、沼垂高校を経て福岡大学を卒業し、現在はミズノに所属。高校時代から走り高跳びの第一人者として活躍しており、オリンピックには3回出場。特に昨年のバルセロナオリンピックの7位入賞は記憶に新しい。

司会 BSNアナウンサー 服部陽介さん 中津川英子さん